

グローバル・ローカル時代を生きる 「個」を育む教育

～グローバル人材を如何に育成するか？～

グローバルビジネス学会提供



未来の先生展

2017

パネルディスカッション形式

開催日時 2017年 8月 27日(日) 10:00-11:30

場 所 武蔵野大学有明キャンパス 1号館3F 306教室

司会者 脇阪嘉明

内容

今年4月に創刊50周年を迎えた『朝日小学生新聞』を媒体に持つ朝日学生新聞社の脇阪嘉明社長をファシリテーターとして「グローバル・ローカル時代を生きる『個』を育む教育 ～グローバル人材を如何に育成するか？～」をテーマにディスカッションします。教育者として、実務家として高度な知見をもつ3名の方々が登壇し、それぞれのバックグラウンドでグローバル社会の中で如何に「個」や「人間力」のある人材を育成していくかを語ります。

- ・今進行しているグローバル化とはどのようなものなのか？
- ・グローバル人材を育成するにはどのようなアプローチが求められるか？
- ・グローバル人材育成を推進する上で克服すべき課題は何か？
- ・教育機関（小学校、中学校、高校）ではどのように取り組むべきか？

登壇者（登壇順）



ファシリテーター

脇阪嘉明

朝日学生新聞社
代表取締役社長

1955年東京都生まれ。早稲田大学法学部卒。

朝日新聞社入社、編集局地域報道部長、マーケティングセンター長、社長室長補佐、横浜総局長を経て、2014年6月朝日学生新聞社代表取締役社長就任。
就職情報会社「学情」社外取締役、洗足学園中学高等学校教養講座講師。



講演・パネリスト

井之上喬

株式会社井之上
パブリックリレーションズ
代表取締役会長兼CEO
京都大学大学院特命教授

早稲田大学公共経営研究科博士後期課程終了。PR研究「自己修正理論」で日本初の博士号を授与。1970年に株式会社井之上パブリックリレーションズを設立。以来、内外の企業、政府機関、団体など広範な分野でPRコンサルティング業務を行う。国際教養大学客員教授（兼任）。パブリック・リレーションズの根幹をなす「関係づくり=絆（きずな）づくり」をベースにした幼児教育、初等、中等教育での「絆教育」の必要性を提唱。日本パブリックリレーションズ研究所 所長、グローバルビジネス学会副会長。著書に「説明責任」とは何か』『パブリックリレーションズ』、論文など多数。



講演・パネリスト

陰山英男

陰山ラボ代表
(教育クリエイター)
元大阪府教育委員会委員長

1958年兵庫県生まれ。岡山大学法学部卒。兵庫県朝来町立(現朝来市立)山口小学校教師時代から、反復学習や規則正しい生活習慣の定着で基礎学力の向上を目指す「陰山メソッド」を確立し、脚光を浴びる。2006年4月から2016年まで、立命館大学教授に就任。立命館小学校では、副校長就任後、校長顧問を歴任。現在は、陰山メソッド普及のため、教育クリエイターとし、陰山ラボ代表を務める。また、計算力検定を行う、一般財団法人基礎力財団の理事長、ドラゼミ(小学館)の総監修も務める。全国各地で学力向上アドバイザーなどにも就任し、学力向上で成果をあげ、北は北海道、南は沖縄まで、全国各地で講演会を実施している。過去には、文部科学省 中央教育審議会教育課程部会委員、内閣官房 教育再生会議委員、大阪府教育委員会委員長などを歴任。



講演・パネリスト

白井克彦

放送大学学園前理事長
早稲田大学学事顧問

1968年早稲田大学大学院理工学研究科博士課程単位取得満期退学。工学博士。

1975年に教授となり、現在は名誉教授。専門は知能情報学。早稲田大学教務部長、国際交流センター所長、常任理事等を歴任し、2002年早稲田大学第15代総長に就任。

2010年11月退任と同時に同学事顧問。

2011年4月より放送大学学園理事長。文部科学省中央教育審議会大学分科会委員、日本私立大学連盟顧問等、多数の要職を兼務。主な受賞歴に、日本放送協会放送文化賞、イタリア共和国功労勲章グランデ・ウッフィチャーレ賞など。

グローバルビジネス学会アドバイザーボード。